

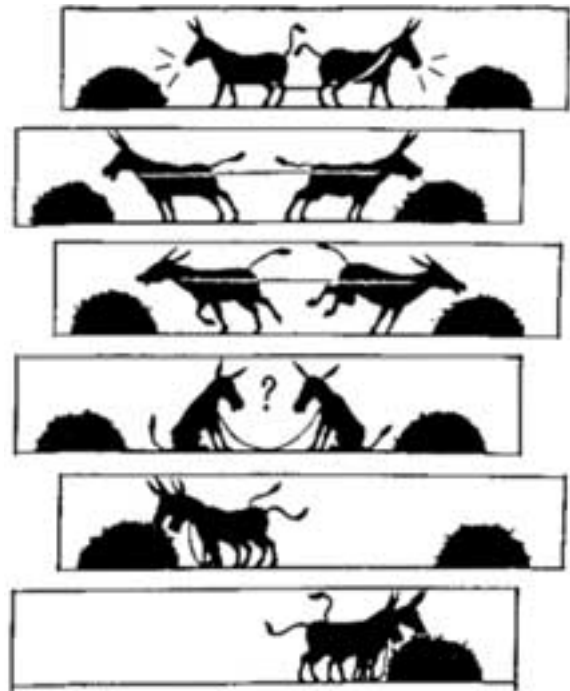
ACTIVITY 開発のための教育 『二頭のロバの話』

まずは、右の絵をご覧ください。

- ①この絵を話にしてみてください。
- ②最後の2コマを抜いて、別の展開を考えて話にしてみてください。

教室で行う時には.....(実践例)

- ①二人一組になります。
- ②右の絵をコマごとにばらばらにしたものを各組に配ります。
- ③二人で話し合いながらコマを並べてみて話をつくります。文章や漫画、劇にして発表してもよいでしょう。上と同様に最後の2コマを自分たちで考えてもらう方法もあります。
- ④クラス全体で以下のような問題について話し合います。
 - はじめロバは何に困っていたか。
 - ロバたちは最初に何をしたか。その方法はうまくいったか。
 - 問題を解決するためにロバたちはどうしたか。
 - だれかと協力することで問題を解決した経験があるか。
 - その時のことを発表しよう。



「開発のための教育パイロットバージョン」より

□ 相互依存を学ぶ アクティビティ

さて、どのような話ができただしょうか。話をつくる時にどんなことに気づいたでしょうか。

T-NET通信2号のこの欄で、ユニセフの「開発のための教育」を構成する5つのコンセプトをご紹介しました。上のアクティビティはそのコンセプトの一つ「相互依存」について認識し、依存しあう中で対立が起きた時にどのように解決するかを学ぶ

ためのものです。

依存しあう関係はさまざまな国からやってくる食べものや着るものからでも、また教室の中での人間関係、自然環境問題などからでも見出すことができます。ひもをつながれた二頭のロバはその関係を象徴しています。引っ張りあい、互いに利益を得られない(あるいは強いものだけが利益を得る)関係をどう改善するか、シンプルな題材の中から、さまざまな話し合いを導くことができるでしょう。

□ 活動の バリエーション

～ 小学校低学年以下には

二人一組になり、大きな紙の上にそれぞれ絵を描くようにいいます。絵を描くためのペンは画用紙の幅の半分の長さのひもで結ばれています。お互い引っ張りあいながら上手な絵が描けるでしょうか? 「だれが早く上手に描けるかな」と競争にしてみてもよいでしょう。

描き終わったあと、うまく描けた子や描けなかった子から感想を聞き、協力しあうことの大切さを認識できるようにすることが大切です。

～ 中学生以上には

アクティビティを行ったのち、実際の世界でこれと似た事象があるか、新聞や本などから調べて発表すると、さらに理解を深めることができるでしょう。



さて2人は どうするでしょう